２００９年度 助成申請書

2008 年　11　月　28 日

財団法人 大阪コミュニティ財団　御中

申請者（代表者）氏名　　伊藤　満　㊞

団体名・役職　特定非営利活動法人ほっとねっと　理事長

所在地　〒630－8301　奈良市高畑町 1202-7

☎　0742　　（　94　　）6800

担当者の氏名　寺前　美加　　役職　理事

☎　090　　（　8233　　）9172

e-mail: npohotnet@yahoo.co.jp

homepage: http://www.bllnara.jp/hotnet/top.html

下記の事業に対し、助成を申請します。

１．助成を申請する事業 名　称：地域と企業と人を元気にするための CSR 活動の基礎講座 骨　子：企業が地域住民の一員として、地域の活力を取り戻し、安心・安全・楽しく住みよいまちづくりに貢献するような地域密着型の CSR 活動のリーダーを養成する。 実施時期：２０１０年１月中旬	
２．助成を申請する当財団の基金、その助成分野（「申請者のためのガイド」に記載のもの） 基金名：一般基金 助成分野：地域社会の活性化・安全確保の活動	
３．助成金申請額　　80000　円	４．事業の全所要　　170000　円
５．これまでに当財団の助成を受けている場合、年度、事業名、助成金額 2007 年度「ひーとびーとの森・子どもと確かめる淀川源流域の環境」145000 円 2008 年度「持続可能なまちづくりを担う次世代を育てたい！」136000 円	
６．添付の書類等（○印、および記入）：　①定款、寄附行為または規約、②役員名簿、③最近年度の事業報告書・決算報告書、④オフィスが入居する建物・事務局内部等の写真、⑤実施事業を紹介する写真・パンフ、新聞・雑誌の記事コピー、⑥所要経費の見積書、⑦その他（　　）	

＊ 個人情報は、選考およびそれに関連する連絡、情報提供のためにのみ利用します。

17. 事業の新規性・先進性（新しい発想、ユニークさ、など）

第三者的な NPO による地域コミュニティと企業双方に恩恵がもたらされる「Win-Win」な関係になるような働きかけ。参加者同士の今後の相互支援を促すためのワークショップ手法。

18. 助成金申請額と事業の収支バランス

①事業の全所要額とその内訳（要・見積書添付）

項目（購入品等別に）	金　額（円）	備　考（個数×単価、用途など、具体的に記述）
講師謝礼	40000	20000 円×2 人
会場費	40000	貸し部屋代、音響・台など
材料費	40000	インク代 4000 円、USB メモリ代 1000 円、茶菓子代 10000 円 名刺・チラシ・資料用紙代 22000 円、模造紙など文具一式 3000 円
スタッフ交通費	20000	2000 円×10 人
会議費	6000	3000 円×2 回
通信費	16000	案内状 200 箇所郵送分
名刺印刷アルバイト	8000	4000 円×2 人
支出合計	A．170000	

②助成金申請額とその使途

申　請　額	B．80000	事業の全所要額の半額以下（ B≦A×1/2 ）
使　　途	講師謝礼・会場費	

③資金の調達方法（会費、事業収入、寄付、助成・補助金（団体別）等に分けてご記入下さい）

調　達　先	金　額（円）	備　考（助成団体の名称など、具体的に）
参加費	40000	1000 円×40 人
寄付金	30000	
自己資金	20000	
当財団への申請額	B．80000	(財)大阪コミュニティ財団　一般基金
収入合計	A．170000	

④助成金申請額が、満額認められない場合の対応について

会場を変える。講師を１人にする。

助成を申請する事業について

（紙面が不足する場合、別紙に詳述してください）

8．名称　地域と企業と人を元気にするための CSR 活動の基礎講座	
9．実施時期　09 年 1 月中旬	10．実施場所　奈良県橿原市「かしはら万葉ホール」
11．実施する主体・主催　　特定非営利活動法人　ほっとねっと	
12．協力・共催団体等　奈良県中小企業連合会、奈良 NPO センター、地域密着型相談センターとまり木	
13．事業の対象（人、地域、など）　奈良県内の中小企業経営者・社員、町内会役員・ボランティアリーダー、障害者・高齢者・在日外国人など社会的弱者	

14．事業の内容（具体的に）

地域の中で CSR 講座を進めるための基礎講座

（プログラム）

13:00　冒頭あいさつ・趣旨説明、

参加者同士の自己紹介のための名刺交換会

「もうひとつの名刺」原稿作成

14:00　地域に根ざした CSR 活動の事例報告（2 件予定）

15:00　（茶菓を楽しみながら）世界の CSR 活動事例、日本の CSR 活動事例、奈良県の CSR 活動の状況学習（任意に休憩をとる）

15:30　自分たちにできる CSR 活動は何か、の参加者同士の話し合い

16:20「もうひとつの名刺」交換会、1 人が 1 人を「他己紹介」、締めくくり

17:00　終了

※冒頭部分で一人ひとり作成した「もうひとつの名刺」原稿は講座開催中に別室で反した作成、プリントアウトして、「もうひとつの名刺」交換会に使う。

15．事業のねらい、社会のニーズ、解決する問題・課題

地域コミュニティ（学校、施設、町内会、ボランティア・文化グループ、社会的弱者当事者団体など）と企業の接点を見出し、地域の課題を CSR 活動の中で解決することが可能であるとの認識づくり。中小企業にとって取り組みやすい地域貢献活動を企業間、地域間で考えあう機会づくり。

16．めざす成果、成功の状態、社会に付加する価値・影響　**目指す成果は**

企業の納税や雇用だけでない地域貢献によって活力と潤いのある楽しいまちができている。

地域密着型の CSR 活動が地域振興と企業経営の安定化の双方を満たしている。

また持続可能な社会づくり、地域コミュニティ再生の一環という位置づけで、前年度事業同様「国連持続可能な開発のための教育 10 年」（ESD）の考え方を取り入れた異分野相互関係性を重視したものとしたい。

助成申請内容の要約

事業の特長、地域社会のニーズ、先進性、成果とその波及効果、当財団の助成金以外の資金調達の可能性、事業実施上の工夫、団体の実績など、簡潔に、かつ要領よくご記入ください。

7．助成申請内容の要約（エッセンス）

日本では21世紀に入り、企業の社会的責任（CSR)という共通語で大手企業を中心に社会的な企業価値を高める活動が広がってきたが、長期的不況の中、その日その日のやりくりに追われていることの多い中小企業にとっては「経済的にも時間的にも人的にも、じっくり取り組む余裕がない」ということで、潜在的には地域社会の中で求められているCSR活動を敬遠しがちである。

本来CSRは持続可能な社会作りに欠かせない要素であり、地球規模の課題解決とともに地域社会の問題を解決させる手段として重視されるべきもので、CSR活動こそがゆるぎない経営基盤づくりとなって経営者・従業員・顧客などのステークホルダーに還元されて当然ものである。

このような観点から、中小企業が地域コミュニティの中で取り組みやすい形で取り組み、企業・地域コミュニティ両方に恩恵がもたらされるようなCSR活動づくりの担い手養成の一助となるように当事業を開催したい。

また、CSRが企業に経済的な負担を強いるものでなくむしろ企業経営に有益となるべきものであることと同時に、環境問題だけでなく、地域や企業の実情に沿った、さまざまな分野・課題に対する多様な活動、社会貢献の形が考えられるとこや、それらの活動が環境問題に還元されていくものでもあることを認識してもらえるような講座内容としたい。

特に、地域社会や中小企業にとっては情報・ノウハウの蓄積されていない分野でもあり、関係者の事前学習会やアンケート調査などの事前調査、「CSRとは？」「持続可能性とは？」といった初心者向きの講座の開催などを年度始めから機会あるごとに行い、本講座に向けての準備に努力したい。

本講座では、講師による事例発表とともに、当NPOが今まで行ってきたワークショップ型の人権学習の手法・ノウハウを最大限に生かして参加者の交流、その後の相互支援を促すことで中小企業の地域でのCSR活動の推進に役立つものとしたい。

２００９年度 助成事業実績報告書

2010月4日6日

財団法人 大阪コミュニティ財団　御中

代表者氏名　　伊藤　満

代表者役職　　理事長

団体名　特定非営利活動法人　ほっとねっと

所在地　〒６３０－８３０１

奈良県奈良市高畑町１２０２－７

☎0742（　94　）6800

担当者の氏名　寺前　美加　　役職　理事

☎090　（8233）　9172

e-mail: npohotnet@yahoo.co.jp

hompage:http://www.bllnara.jp/hotnet/top.html

2007年4月に助成を受けた事業について、下記のとおり必要書類をそえて報告します。

1．助成事業の名称	地域と企業と人を元気にするためのCSR活動の基礎講座	
2．助成金交付決定額	80000円	
3．助成事業の実施期間	着手：2010年3月7日	完了：2010年3月7日

4．提出する書類等（○印、および記入）

作成・提出にあたっては、「助成事業実績報告書の作成要領」をご参照ください。

（○）①「助成事業の実施内容および成果（要約）」

（○）②「助成事業の実施内容および成果（本報告書）」

（　）③ 助成事業報告書（特別の印刷物があれば・・）

（○）④ 助成事業の経理報告

（○）⑤ 事業全体をカバーする全支出分の領収書コピー

（○）⑥ 事業活動に関する写真（2種類以上）

（○）⑦ 助成基金名、当財団名を表示した印刷物等

（　）⑧ 助成事業を紹介した新聞記事、HPコピー等

（　）⑨ その他（　　）

「助成事業の実施内容および成果（要約）」

助成した基金の名称	西日本ＳＨＤパートナーズ倶楽部　地域活性化支援基金		
助成事業の名称	地域と企業と人を元気にするための CSR 活動の基礎講座		
団体名	特定非営利活動法人　ほっとねっと	代表者氏名	伊藤　満

事業の実施内容：

地域の中で中小企業が CSR を進めるための基礎講座

（プログラム）

18:30　冒頭あいさつ・趣旨説明

18:35　中小企業のための CSR 学習会　成果報告（ほっとねっと・きんき環境館）

18:45　講話「ISO26000 が始動する」～ＣＳＲの展開にどう対応する～

（奈良 NPO センター常務理事・中小企業診断士　梅屋則夫氏）

19:30　参加者同士の自己紹介のための名刺交換会・交流

19:50　'地域 CSR' 事例紹介「環境・福祉のはざまで、企業との素敵な関係」

（阪南市立さつき園園長　高山慶太氏）

20:10　質疑応答

20:30　参加者同士改めて自己紹介と、講師や参加者相互への質問・交流

21:00　終了

実施した事業の具体的な成果

◎この講座の充実した内容での開催を目標に、きんき環境館と共催で「中小企業のための学習会」を３回実施したことで、持続可能な社会作りという観点で人権（福祉）・環境という異分野を統合させた地域密着型の中小企業の社会貢献活動のあり方を主催者・参加者とともに共有することができ、HP などでもその内容を広く公開することができた。

◎この講座の企業関係者・NPO 関係者・行政関係者とさまざまな立場の参加者同士の交流が進み、企業の CSR 活動で行っている畑作に NPO が参加したり、企業の行事に市民団体が講師に招かれるなど、後日も連携が活発となった。

◎このようなワークショップ型・交流型の講座にスタッフとして青年にかかわってもらうことで、次世代に新しい講座のあり方のノウハウを多少なりとも伝えることができた。

◎この講座や事前学習によって、今年秋に発効予定の社会的責任規格である ISO26000 の重要性、必要性について、企業・NPO など市民団体・行政の少なくとも３者で共有することができ、その構築をともに進めることを検討する機会となった。

この「要約」は、助成金を支給した基金の寄付者に、事業活動に関する写真とともに、事業実施の報告としてお届けするものです。A4 版１枚に要領よく明確・簡潔にご記入ください。

決算書

（2009年度一般基金助成事業「地域と企業と人を元気にするためのCSR活動の基礎講座」）

収入

調　達　先	金　額（円）	備　考
助成金	80000	（財）大阪コミュニティ財団
利用者負担金	33000	参加費1000円×31人
自己資金	49285	
収入合計	162285	

支出

項目（購入品等別に）	金　額（円）	備　考（個数×単価、用途など、具体的に記述）
講師謝礼	40000	20000円×1人、10000円×2人
会場費	27830	施設使用料22200円、設備使用料5630円
材料費	43035	書籍資料代 2260円、用紙代　1610円、 文具代　10019円、USBメモリ代　1401円、 電池代　105円、インク代2940円 当日茶菓代　24700円
旅費交通費	30000	スタッフ会議交通費2000円×7人 スタッフ当日交通費2000円×8人
会議費	3500	会議お茶代
通信費	17920	企業向け案内送付8960円、NPO・個人向け案内送付8960円
支出合計	162285	

助成事業の実施内容および成果

基金名：西日本ＳＨＤパートナーズ倶楽部　地域活性化支援基金

事業名：地域と企業と人を元気にするためのＣＳＲ活動の基礎講座

団体名：特定非営利活動法人ほっとねっと

代表者：理事長　伊藤 満

実施事業の内容：

（概要）

地域の一員として地域活性化に貢献できるようなCSRを考える中小企業向け基礎講座

（目標としたこと）

地域コミュニティ（学校、施設、町内会、ボランティア・文化グループ、社会的弱者当事者団体など）と企業の接点を見出し、地域の課題をCSR活動の中で解決することが可能であるとの認識づくり。中小企業にとって取り組みやすい地域貢献活動を企業間、地域間で考えあう機会をつくり、企業の納税や雇用だけでない地域貢献によって活力と潤いのある楽しいまちづくりを目指す。

（対象）

奈良県内の中小企業経営者・社員、町内会役員・ボランティアリーダー、障害者・高齢者・在日外国人など社会的弱者

（実施期間・日程）2010年3月7日

（実施場所）

かしはら万葉ホール　レセプションホール(橿原市小房町11-5)

（実施内容）

（プログラム）

18:30　冒頭あいさつ・趣旨説明

18:35　中小企業のためのCSR学習会　成果報告（ほっとねっと・きんき環境館）

18:45　講話「ISO26000が始動する」～ＣＳＲの展開にどう対応する～
（奈良NPOセンター常務理事・中小企業診断士　梅屋則夫氏）

19:30　参加者同士の自己紹介のための名刺交換会・交流

19:50　‘地域CSR’事例紹介「環境・福祉のはざまで、企業との素敵な関係
（阪南市立さつき園園長　高山慶太氏）

20:10　質疑応答

20:30　参加者同士改めて自己紹介と、講師や参加者相互への質問・交流

21:00　終了

実施事業の成果

◎この講座の充実した内容での開催に向けて、きんき環境館と共催で「中小企業のためのCSR学習会」を3回実施。その学習会や打ち合わせ、他のCSRなどの学習会での学習などのプロセスで、人権や福祉と環境という異分野が接点をもちつつ、総合的に地域づくりに役立つような中小企業のCSRのあり方を考え、共有することができた。その成果をまとめた「ここが肝心！CSR」などをこの講座で報告して参加者に持ち帰ってもらえたことはもちろん、専用のHPをつくり、その成果をアップするなど広く公開して地域CSRを考えるきっかけづくりを提供することができた。

◎この講座に地域の金融機関である信用金庫や地域に拠点を置く運送会社、生協、地域の材料で製品作りをする繊維メーカー、IT企業など企業関係者とニート・引きこもり支援や国際交流、耕作放棄地再生活動などを行っているNPO関係者と県職員や県議会・県内市議会関係者など行政関係者が参加することにより、相互理解が進み、その後企業がCSR活動として行っている菜の花栽培にNPOが参加したり、生協のCSR活動で行う自然体験講座の講師に市民団体のメンバーが招かれたり、異業種・異分野間でのメールのやりとりが活発になるなど、後日に実際のCSR活動での連携が進んだ。

◎当日、結局参加者の相互に話を参加者同士で密に交流を深める時間にしてほしい、との要望で「もうひとつの名刺づくり」や「地域づくりワークショップ」は行わなかったが、学習会や事前打ち合わせなどを通して、講座のノウハウを伝えることができ、今後、地域づくりのためのより発展的な会合のあり方を若い世代に考えてもらうきっかけとなった。

◎事前の学習会や、この講座の講義を通して、まだあまり知られていない、今年秋に発効予定の社会的責任規格「ISO26000」の必要性、重要性について、立場を超えて共有することができ、ISO26000のISO14001やISO9001など今までの国際規格とは違って、より自分たちが取り組みやすい、地域ぐるみでの構築の仕方を今後も立場を超えて皆で考えていくきっかけづくりができた。

大阪コミュニティ財団助成事業

企業と地域と人が元気になる
CSR 基礎講座

※ CSR＝企業の社会的責任（対応性・応答性）

地域活性化とみんなの豊かな暮らしのために、CSR を共有・分担しませんか。

★ 名刺交換会
★ 講話「ISO26000 が始動する」～CSRの展開にどう対応する～
（奈良 NPO センター常務理事・中小企業診断士　梅屋則夫氏）
★ ‘地域 CSR’事例紹介「環境・福祉のはざまで、企業との素敵な関係」
（阪南市立さつき園園長　高山慶太氏）
★ 中小企業のための CSR 学習会　成果報告（ほっとねっと・きんき環境館）
★ ワークショップ「持ち寄り CSR エクササイズ、このまちでそれぞれができること」
★ 「もうひとつの名刺」交換会（※この“名刺”は当日作成させていただきます）

◎日時：3 月 7 日(日)18：30－21：00（開場・受付18：00～）
◎場所：かしはら万葉ホール　レセプションホール(橿原市小房町 11-5)
◎持参するもの：名刺 50 枚程度（仕事でお使いのものなど。名前と連絡先記載のみでも可）
※参加者同士の名刺交換可能なことが参加条件となります。
◎参加費：1000円（ケーキセット、資料代など）
◎定員：50 人（先着順）
◎対象：企業関係者（経営者、CSR 担当者など）
行政関係者、NGO/NPO 関係者など
◎主催：NPO 法人ほっとねっと
◎後援：NPO 法人奈良 NPO センター
近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）

◎申込・問合せ：ほっとねっと（〒630-8301 奈良市高畑町 1202-7
TEL＆FAX0742-94-6800、npohotnet@yahoo.co.jp、090-8233-9172 寺前）

申込書（FAX0742－94－6800）

お名前		ご所属（無記入可）	
ご連絡先			
お名前		ご所属（無記入可）	
ご連絡先			
お名前		ご所属（無記入可）	
ご連絡先			

CSR-これが肝心！

CSR＝企業などの社会対応性

CSR を「企業の社会的責任」と訳すと「責任をとる、とらない」という話になり、「これだけちゃんとやってるんだから、文句ないでしょ」と限定的で、なんだか夢がありませんよね。お互いの視点・気持ちを思い合いながら、その関係性の中で何かを育てていく。するべきことは、その時その時のケース・バイ・ケース。行きつ戻りつ、らせん状に相互に発展していく。結果ではなく、プロセスを楽しみ、評価する。そういう意味で「社会的対応性」または「社会的信頼性」とするほうが幸せですね。また企業だけの問題ではなく、あらゆる組織、市民が考えるべきものなので、CSR とは「企業などの社会的対応性」だといえるのではないでしょうか。

また、CSR の核心は人・モノ・地域性などの多様性を徹底的に生かして利益を生み出すこと。100 年続いてきたことに学び、100 年続くことを考えるという持続可能な社会作りに加わること。それは横並び意識のあるうちはできないけれど、横のつながりがなければとてもできないことでもあります。

CSR は分担し、共有するもの

CSRは他者との関係性の中で分担・共有 ネットワーク。

一社完結型の CSR はありえません。さまざまな関係性の中で社会的対応性を少しずつ分担すること。そしてネットワークを形成してそれらを共有することで段々に世の中をよくしていくものです。新規に何かを始めるよりは、まず今やっているもののなかに CSR を見出し、位置づけていくことからはじめるとお互いに無駄がありません。

ほんものの CSR はチェック主義＝リスク回避でない。むしろリスクにチャレンジできるように企業どうし、また地域の中で相互にサポートしあうことです。そうすることで小資本、小規模であることが強みとなり、小さな声、小さな店を守ることで長い目で見た時に地域が元気になっているように。

H27

家族・地域が喜ぶ CSR であるか

CSR で今、目を向けたい大切なことは家族・自然・農業です。そして力をあわせて安心・安全な暮らしをつくることです。ひとり暮らしの高齢者、親だけではしんどい子育てなどを地域でどう支えるか。個人の好意だけで長続きさせることは難しい。行政のサポートがあり、地域コミュニティに企業が加わることで安心と継続可能なまちづくりができるのではないでしょうか。地域は、雇用を守れる強い経営体質になるため日々努力している地元企業に目を向け、家族が喜んで買いたいと思う商品・サービスの創造や、誇りの持てる会社づくりに地域のみんなが協力し、企業は世代間交流の場を提供したり、老人が歩いて買い物に行け、地元でつくられたものを売る店作りや車を降りて自転車で観光できるまちづくりなどへの協力、というように家庭→会社→町内→地域への活動「循環」がうまくいくことで、郷土愛率の年々の成長をみんなで楽しむことができる。そんな世界標準より家族意識を高めることから始まる CSR でありたいものです。

多様性交換
親戚ネットワークコップ

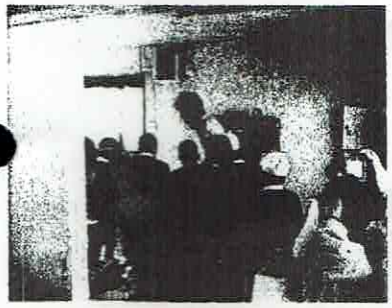
弱い
生活基盤

自然 ⇔ 自然

食用廃油再生燃料化リサイクル事業

大阪府阪南市　：　社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団 阪南市立さつき園

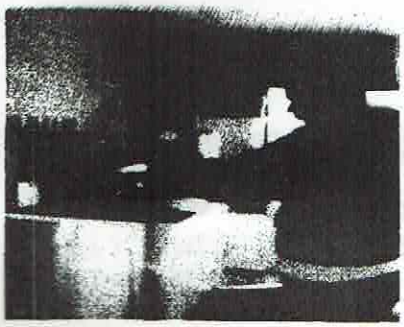
社会福祉法人　日本ヘレンケラー財団 阪南市立さつき園では、平成 18 年 11 月より使用済みの植物性食用油から『バイオディーゼル燃料』を精製する事業を開始いたしました。
飲食店・スーパー、施設、病院から廃食油を集め、ディーゼル車の燃料に加工して、販売しています。油を提供してくれる人は次第に増えており、平成 19 年 4 月からは、財団法人大阪コミュニティ財団関与基金である東洋ゴムグループ環境保護基金の助成を受け、運営も潤沢になりました。



写真：バイオディーゼル燃料精製機器の前で見学に来た小学生に説明する職員

1．事業開始の経緯

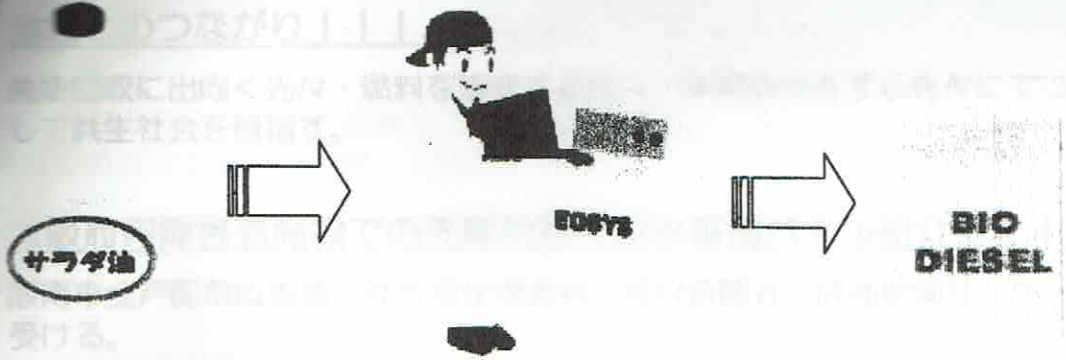
さつき園は知的障がい者通所授産施設であり、現在 32 名の方が利用されています。平成 18 年 4 月 1 日に障がい者自立支援法が施行されて以来、利用者は、応益負担の原則で施設に利用料の一割を支払っています。（減免措置有）
同月、さつき園の運営が、公設公営の施設から、公設民営へ移行したのですが、その時点で利用者が施設で作業をして、得る賃金の平均は、月平均 2,178 円でした。
それから数ヶ月が経ち、応益負担の原則により、利用料の一割を支払わなくてはいけなくなった方の中には、その月平均 2,178 円の作業工賃収入で、施設利用料を払うことが厳しくなり、施設利用日数を減らすか、辞めることを考える人も出てきました。
施設として何か出来ることはないか。
そこではじめたのが天ぷら油から軽油（代替燃料）を作る地域貢献事業でした。



写真：精製作業に当たる利用者

2. 事業実績と授産工賃の増額推移・環境への効果

◆2006 年 11 月 2 日
株式会社セペック バイオディーゼル燃料精製プラント EOSYS-５０ 設置



◆地域の飲食店に事業説明に出向き回収協力依頼⇒回収契約締結
◆関心のある方々にバイオディーゼル燃料精製デモンストレーション開催
・１１月１４日：精製したバイオディーゼル燃料販売開始
・１１月２７日：自社送迎バスに給油開始（BDF100%使用に転換）

11月分授産工賃：利用者平均　2181円（事業開始月）

⇩

2007年12月分授産工賃：利用者平均　5945円！！！

⇒1年で3764円の増額に成功！！！

2008年２月20日時点で、バイオディーゼル燃料販売量が、
事業開始より10927リットルに到達！！！
軽油を使用した場合より、
２８８４７．２８kg＝約29トンのCO2を削減！！！

（参考データ）
○軽油１リットルを燃焼した場合のCO2排出量は２．６４ｋｇ
○CO2：１ｋｇの体積は１リットルの牛乳パックに約５００本分
→29トンは1442万3500本分！！！

３．成果と課題

◆成果

福祉施設が社会貢献事業！！！

今まで社会から助けられる側として在った福祉施設が、自ら今度は地域社会の中で地球環境問題というものに対して、具体的な取り組み役割を持つことで、社会貢献！
地域と一緒に取り組むことにより、地域活性化の一翼を担う。

利用者の授産工賃の増額を達成！！！

平成18年４月～平成19年３月　平均2384円
↓
平成19年４月～平成19年12月　平均4183円

地域とのつながり！！！

廃油回収に出向く先々・燃料を販売する先々・事業説明をする先々にてつながりをもち、連帯して共生社会を目指す。

大阪府内障害者施設での先駆的取り組み事例パネル紹介！！！

阪南市全戸配布広報誌・社会福祉協議会・毎日新聞社・読売新聞社・ケーブルテレビの取材も受ける。

施設見学者数の増加！！！

⇒　障害者福祉への理解促進と資源循環型社会への意識の芽生え
福祉という観点から環境という観点での見学者数の増加。
行政・研究機関・市民・他福祉施設・企業・NPO・小学校など約１年で500人の見学者数

CO2の削減から地球温暖化防止に僅かながら貢献！！！

カーボンニュートラルな燃料を使うことによって、軽油使用時と比べ、地球温暖化の原因の一説である二酸化炭素の削減に努める。
⇒地域の利益となりうる。

新たなネットワークの構築！！！

バイオディーゼル燃料利用推進協議会に加盟登録
自然エネルギー市民の会のバイオディーゼル燃料有識者会議に参画

多用途への広がり

2007年11月３日・４日　同志社大学京田辺キャンパス　学園祭ADAM祭
に於いて、Doshisha Eco Projectとの連携協力により、使用電力の一部を阪南市立さつき園
精製のバイオディーゼル燃料を使って賄う。
発電機レンタリース協力：株式会社秋田商店

写真：廃油を漉す作業で協働する施設利用者と職員

◆課題

バイオディーゼル燃料使用軽油車輌への負荷

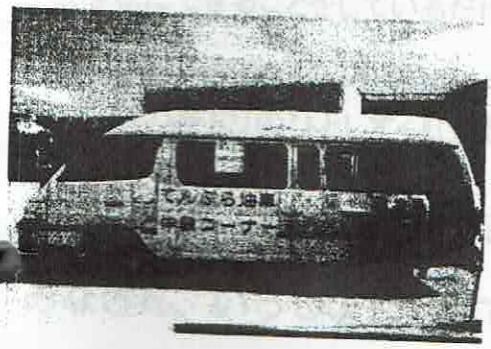
・燃料フィルターの目詰まり
→定期的な燃料フィルターの交換を促す
・DPD装置が付いている車輌やコモンレール方式の車輌はトラブルの事例有
→事例の出ている車種の調査と情報開示、使用者責任の説明

・天然ゴム仕様部位の劣化
→交換できる部品については交換を促す・ハード面での開発

⇒トータル面での燃料の品質向上
⇒多くの連携機関との協働・連帯が必要不可欠

原料である植物性食用油の確保

⇒飲食店などに回収に当たる場合には産廃業者との交渉
・阪南市内の家庭からでる廃油の回収
⇒校区福祉会との連携・生協との連携を検討中



写真：近隣の中学校での出展写真

4. まとめ

さつき園はバイオディーゼル燃料を精製し始めてから、多くの課題と向き合い、その度それを乗り越えてきました。
軽油代替燃料を作り、地域社会の中で明確な役割を持ち、福祉施設が社会貢献・地域貢献する。
燃料を作ったこともないのに、新燃料の開発を行う。
研究者もいないのに、燃料の品質・精製度を向上する。
けれど、私たちがやりはじめたことにより、着実に歩み始めたことにより、変わる未来が見え始めています。

写真：天ぷら油で車が動く？においを嗅ぐ小学生

最後に・・・

エクアドルの森の話

南アメリカの先住民に伝わるハチドリの物語

あるとき森が燃えていました

森の生きものたちは
われ先にと逃げていきました

でもクリキンディという名のハチドリだけは
いったりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい何になるんだ」
といって笑います

クリキンディはこう答えました
「私は私にできることをしているだけ」

出典:『私にできること～地球の冷やし方』(ゆっくり堂)、
『ハチドリのひとしずく』(辻信一監修、光文社)

さつき園はこれからもできることをあきらめません。

みなさん、いっしょにどうですか？^ ^

ご清聴ありがとうございました。

その他・・・

・ 2007年夏至に合わせて、7月6日（金曜）に電気を消して蝋燭の灯火の中で過ごすという、キャンドルナイト@さつき園まつのき園を開催。

上記：2007年7月6日（金）七夕前夜キャンドルナイト　広報フライヤー

冬至は施設内イベントとしてクリスマス会と合催。
また泉南青年会議所主催で開催されたキャンドルナイトで使用されたキャンドルを回収し、リサイクル。キャンドルからキャンドルを作って提供。

・コンビニなどの置き傘を、社会福祉協議会を通じて廃棄される前に回収し、裁断・縫製を経て、エコバッグにリメイク！！！

・阪南市の沿岸の空き缶拾いを実施。その空き缶を遊具としレクリエーションで使用。